

【2015 年度 RFLJ プロジェクト未来 助成研究者の横顔 8 北野敦子先生】

第 8 弾は「患者・家族のケアに関する研究」（Ⅱ分野）よりご紹介致します。

◆国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科

◆研究テーマ「-母と子、ふたりの命を救う！ - 妊娠期癌ホットラインおよび診療ネットワーク開発に関するアクションプラン」

◆助成金額 80 万円

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私はこれまでに複数名の妊娠期乳がんの患者さんの治療に携わる機会がありました。

初診時に話を聞くと、多くの患者さんが、妊娠の継続と癌治療の両立は不可能であると考えていたことが分かりました。

また、それと等しく、彼女たちが最初に受診した病院の医療者もまた、妊娠の継続と癌治療の両立は不可能であると考えていたこともわかりました。

近年では、適切にマネジメントすることで、両者の両立は可能であること、また在胎時に薬物療法を受けた児の発育に関しても報告が行われています。

しかしながら、本邦では妊娠期がんの診療体制が未整備であり、適切な治療の体系化が行われていません。

そこで、私は「妊娠期がん」をテーマに研究を行うことを決意しました。

2. 助成研究の内容紹介

妊娠中にがんが発症する状態を「妊娠期がん」と呼びます。現在、妊娠期がんは 1000 妊娠に 1 人の頻度で発症すると言われていています。

現在では適切な腫瘍学的マネジメントと、周産期管理により、妊娠を継続しながらがん治療を継続することが可能となっています。

しかしながら、本邦における妊娠期がん診療の診療体制は十分とは言えません。

そこで、本研究では「妊娠期がんホットライン」を開設し、全国から妊娠期がんの相談、患者さんの受け入れを行いたいと考えています。

また、近隣施設と連携し「妊娠期がん診療ネットワーク」を構築し、適切な癌治療と周産期管理の両立を目指します。

3. 将来につながり結果予測

本研究により、癌腫、病期を問わず、多様性のある妊娠期がん患者さんの相談および診療が可能になると考えています。

母と子、二つの命をつなぎ、救うことが本研究の使命と考えています。

4. 全国の RFLJ の関係者の方へ

このたびは、研究助成対象に選出していただき、ありがとうございました。

本研究では、「妊娠期がん」という癌領域の中でもまだ未整備な問題に取り組む予定です。

子供を授かるという最高に幸せな瞬間と、がんの発症という命の危機を同時に抱える妊婦さんと、その家族に希望を与えたいというのが研究者の思いです。

「妊娠期がん」の診療には癌腫、診療科、職種、病院の壁を超えたチームが必要です。

RFLJのお力をいただき、本研究が実現化することに感謝いたします。